



平成30年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年1月12日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福
 コード番号 9601 URL http://www.shochiku.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 迫本 淳一
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 尾崎 啓成 TEL 03-5550-1699
 四半期報告書提出予定日 平成30年1月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第3四半期の連結業績（平成29年3月1日～平成29年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第3四半期	70,930	△4.0	5,370	△23.0	4,720	△23.8	2,976	△18.8
29年2月期第3四半期	73,923	5.5	6,977	20.0	6,192	20.6	3,666	12.2

(注) 包括利益 30年2月期第3四半期 5,675百万円 (10.3%) 29年2月期第3四半期 5,147百万円 (△9.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第3四半期	216.63	—
29年2月期第3四半期	266.82	—

※平成29年9月1日付で普通株式10株について1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年2月期第3四半期	205,762	91,198	44.3	6,630.55
29年2月期	198,769	86,117	43.3	6,260.96

(参考) 自己資本 30年2月期第3四半期 91,099百万円 29年2月期 86,039百万円

※平成29年9月1日付で普通株式10株について1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期	—	0.0	—	4.00	4.00
30年2月期	—	0.0	—	—	—
30年2月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

平成29年2月期 期末配当4円00銭には、特別配当1円00銭が含まれております。

※平成29年9月1日付で普通株式10株について1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、平成30年2月期(予想)の1株当たり期末配当金及び年間配当金合計については、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。詳細については、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

3. 平成30年2月期の連結業績予想（平成29年3月1日～平成30年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	94,790	△1.4	5,450	△27.7	4,540	△31.5	2,500	△32.6	181.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※通期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、株式併合の影響を考慮しております。詳細については、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー 社（社名） 、除外 ー 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年2月期3Q	13,937,857株	29年2月期	13,937,857株
② 期末自己株式数	30年2月期3Q	198,433株	29年2月期	195,627株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年2月期3Q	13,741,108株	29年2月期3Q	13,743,321株

※平成29年9月1日付で普通株式10株について1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（株式併合後の配当及び連結業績予想について）

当社は、平成29年5月23日開催の第151回定時株主総会において株式併合について承認可決され、平成29年9月1日を効力発生日として、普通株式10株について1株の割合で株式併合を行っております。

なお、株式併合を考慮しない平成30年2月期の配当予想及び連結業績予想は以下のとおりとなります。

1. 平成30年2月期の配当予想
1株当たり配当金 期末 3円00銭
2. 平成30年2月期の連結業績予想
1株当たり当期純利益 通期 18円19銭

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益および雇用情勢は改善し、雇用・所得環境が上向く中で、個人消費も持ち直しており、景気は緩やかな回復基調が続きました。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高70,930百万円(前年同期比4.0%減)、営業利益5,370百万円(同23.0%減)、経常利益4,720百万円(同23.8%減)となり、特別利益363百万円、特別損失553百万円を計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,976百万円(同18.8%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

配給は、3月公開の「PとJK」、6月公開の「兄に愛されすぎて困ってます」は10～20代女性の、アニメ「劇場版 黒子のバスケ LAST GAME」はテレビシリーズのファンからそれぞれ支持を集めヒットとなりました。7月公開の「東京喰種トーキョーグール」は大ヒットコミックの実写化、8月公開の「HiGH&LOW THE MOVIE 2/END OF SKY」、11月公開の「HiGH&LOW THE MOVIE 3/FINAL MISSION」は昨年に続きEXILE TRIBEを中心に豪華キャストが出演と、いずれも大変な話題となりました。また、9月公開の「ナミヤ雑貨店の奇蹟」は大ベストセラー作品の映画化で、好調に推移しました。

興行は、自社配給作品のほか「美女と野獣」等のヒット、夏休み映画も好調だったことから、収益に高く貢献しました。

テレビ制作、映像ソフト、テレビ放映権販売、海外向け作品販売、CS放送事業等は堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は40,514百万円(前年同期比5.6%減)、セグメント利益は2,804百万円(同25.1%減)となりました。

(演劇事業)

歌舞伎座は、「三月大歌舞伎」の十世坂東三津五郎三回忌追善狂言「どんつく」と、河東節開曲三百年記念を銘打ちました「助六由縁江戸桜」が話題となり好況となりました。「團菊祭五月大歌舞伎」は、初代坂東楽善、九代目坂東彦三郎、三代目坂東亀蔵の襲名披露、六代目坂東亀三郎の初舞台、寺島しのぶの長男寺嶋眞秀の初お目見得と話題を呼び盛況の公演になりました。「七月大歌舞伎」は、「通し狂言駄右衛門花御所異聞」が市川海老蔵、堀越勸玄の親子二人による宙乗り等が話題となり大盛況となりました。「八月納涼歌舞伎」は昨年上演しました市川染五郎、市川猿之助による「東海道中膝栗毛」の続編「歌舞伎座捕物帖」や「野田版桜の森の満開の下」等が大きな話題を呼び大人気の公演となりました。「芸術祭十月大歌舞伎」ではインド文学「マハーバーラタ戦記」をもとにした新作歌舞伎を上演し、高い評価を得ました。

新橋演舞場は、4月、5月は「滝沢歌舞伎2017」を上演し、12年間で公演回数が通算600回を超え、6月の「東京喜劇 熱海五郎一座」は藤原紀香をゲストに迎え盛況となりました。10、11月にはスーパー歌舞伎Ⅱ(セカンド)「ワンピース」を再上演し、大盛況となりました。

大阪松竹座は、新築開場二十周年を迎え多彩なラインナップを並べました。3月、8月のジャニーズ公演は収益に貢献し、市川猿之助、中村勘九郎、中村七之助出演の「五月花形歌舞伎」、片岡仁左衛門を中心とした恒例の「七月大歌舞伎」は、それぞれ盛況となりました。

南座につきましては、耐震補強を図る工事のため、休館しております。

その他の公演は、9月に日生劇場にてジャニーズJr.を中心とした「少年たち ～Born TOMORROW～」、サンシャイン劇場を皮切りに大阪松竹座、さらには久留米シティプラザにて松本幸四郎が襲名前最後に演じた「アマデウス」が、好評を博しました。

巡業公演では、4月に「四国こびら歌舞伎大芝居」を香川県で上演し、7月は公文協巡業として「八代目中村芝翫襲名披露公演」「五代目中村雀右衛門襲名披露公演」を全国各地で展開しました。

受託製作では、「六月博多座大歌舞伎」は八代目中村芝翫、四代目中村橋之助、三代目中村福之助、四代目中村歌之助の親子四人の襲名公演で盛況となりました。

シネマ歌舞伎、METライブビューイング、その他演劇事業は、堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は18,062百万円(前年同期比2.1%減)、セグメント利益は917百万円(同44.4%減)となりました。

(不動産事業)

不動産賃貸は、歌舞伎座タワー、築地松竹ビル（銀座松竹スクエア）、東劇ビル、新宿松竹会館（新宿ピカデリー）、有楽町センタービル（マリオン）、松竹倶楽部ビル、大船の松竹ショッピングセンター、新木場倉庫、浜松松竹ビル、大阪松竹座（地下飲食街）等が満室となり、安定収入に貢献しました。また、各テナントとの賃料改定交渉にも誠実に対応し、利益の確保に努め、効率的運営、経費削減を推進し、計画どおりに利益確保しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,741百万円（前年同期比0.8%増）、セグメント利益は3,435百万円（同4.0%増）となりました。

(その他)

プログラム・キャラクター商品は、劇場プログラムで「HiGH&LOW THE MOVIE 2/END OF SKY」「HiGH&LOW THE MOVIE 3/FINAL MISSION」「ピーチガール」「ナミヤ雑貨店の奇蹟」等の自社配給作品が収益に貢献しました。キャラクター商品も「魔法少女リリカルなのは Reflection」「機動戦士ガンダム THE ORIGIN」「劇場版 黒子のバスケ LAST GAME」等のアニメ作品、サンリオと共同開発した「かぶきにゃんたろう」等の歌舞伎関連グッズが好評を得ました。また9月には松竹歌舞伎屋本舗の鎌倉小町店が新たにオープンしました。

イベント事業、貸衣裳事業、清掃事業及び舞台大道具製作事業は堅調な成績をあげています。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,613百万円（前年同期比5.5%減）、セグメント利益は432百万円（同37.0%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ6,993百万円増加し、205,762百万円となりました。これは主に投資有価証券の増加等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,912百万円増加し、114,564百万円となりました。これは主に長期借入金（責任財産限定）の減少があったものの、1年内返済予定の長期借入金（責任財産限定）、支払手形及び買掛金の増加等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ5,080百万円増加し、91,198百万円となりました。これは主に利益剰余金及びその他有価証券評価差額金の増加等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点においては平成29年4月14日付「平成29年2月期 決算短信」にて発表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,038	17,830
現金及び預金 (責任財産限定対象)	11,564	11,468
信託預金 (責任財産限定対象)	3,244	3,308
受取手形及び売掛金	6,822	7,557
商品及び製品	1,474	1,493
仕掛品	3,244	3,327
原材料及び貯蔵品	83	79
その他	2,926	4,140
貸倒引当金	△10	△8
流動資産合計	46,387	49,197
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	16,943	16,323
建物及び構築物 (責任財産限定対象) (純額)	19,187	18,523
信託建物 (責任財産限定対象) (純額)	10,597	10,061
設備 (純額)	9,323	8,685
土地	21,998	21,998
信託土地 (責任財産限定対象)	18,751	18,751
その他 (純額)	5,509	6,226
有形固定資産合計	102,312	100,571
無形固定資産		
その他	2,479	2,476
無形固定資産合計	2,479	2,476
投資その他の資産		
投資有価証券	26,109	32,554
長期前払費用 (責任財産限定対象)	13,209	12,989
退職給付に係る資産	531	529
その他	7,926	7,637
貸倒引当金	△187	△192
投資その他の資産合計	47,589	53,517
固定資産合計	152,381	156,565
資産合計	198,769	205,762

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,848	8,137
短期借入金	4,190	4,142
1年内返済予定の長期借入金	7,626	5,363
1年内返済予定の長期借入金 (責任財産限定)	1,631	17,481
未払法人税等	1,221	512
賞与引当金	459	166
その他	7,137	9,974
流動負債合計	29,114	45,777
固定負債		
社債	1,100	1,100
社債 (責任財産限定)	500	500
長期借入金	24,115	25,744
長期借入金 (責任財産限定)	37,616	20,310
役員退職慰労引当金	869	878
偶発損失引当金	84	95
退職給付に係る負債	1,240	1,332
資産除去債務	1,293	1,313
その他	16,718	17,511
固定負債合計	83,537	68,786
負債合計	112,651	114,564
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,136	30,136
利益剰余金	14,898	17,322
自己株式	△1,365	△1,408
株主資本合計	76,686	79,068
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,282	11,946
退職給付に係る調整累計額	70	84
その他の包括利益累計額合計	9,352	12,031
非支配株主持分	78	98
純資産合計	86,117	91,198
負債純資産合計	198,769	205,762

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
売上高	73,923	70,930
売上原価	41,807	39,876
売上総利益	32,116	31,054
販売費及び一般管理費	25,138	25,684
営業利益	6,977	5,370
営業外収益		
受取利息	10	8
受取配当金	188	235
持分法による投資利益	—	5
貸倒引当金戻入額	2	3
その他	143	91
営業外収益合計	344	343
営業外費用		
支払利息	712	672
借入手数料	157	142
持分法による投資損失	12	—
その他	245	178
営業外費用合計	1,128	993
経常利益	6,192	4,720
特別利益		
受取和解金	50	—
違約金収入	—	363
特別利益合計	50	363
特別損失		
固定資産除却損	495	493
和解金	—	60
特別損失合計	495	553
税金等調整前四半期純利益	5,747	4,529
法人税、住民税及び事業税	2,269	1,608
法人税等調整額	△196	△75
法人税等合計	2,072	1,532
四半期純利益	3,674	2,997
非支配株主に帰属する四半期純利益	8	20
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,666	2,976

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年11月30日)
四半期純利益	3,674	2,997
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,453	2,662
退職給付に係る調整額	17	14
持分法適用会社に対する持分相当額	1	2
その他の包括利益合計	1,472	2,678
四半期包括利益	5,147	5,675
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,139	5,655
非支配株主に係る四半期包括利益	8	20

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年11月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	42,908	18,451	7,683	4,879	73,923	—	73,923
セグメント間の内部売上高又は振替高	160	129	1,280	3,224	4,795	△4,795	—
計	43,069	18,581	8,964	8,104	78,718	△4,795	73,923
セグメント利益	3,742	1,649	3,301	315	9,009	△2,032	6,977

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△2,032百万円には、セグメント間取引消去55百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,087百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年11月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	40,514	18,062	7,741	4,613	70,930	—	70,930
セグメント間の内部売上高又は振替高	78	127	1,246	3,300	4,752	△4,752	—
計	40,592	18,189	8,987	7,913	75,683	△4,752	70,930
セグメント利益	2,804	917	3,435	432	7,589	△2,219	5,370

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△2,219百万円には、セグメント間取引消去51百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,270百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。